

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第48号

2018年11月30日発行

きれい！おもしろい！野菜・果物の花



キクイモの花



ブドウの花



サトイモの花



エンドウマメの花



題字・内村太一くん 他



ゴボウの花



柿の花



ネギの花



★カラーでご覧になれます。

当協議会ホームページの<https://abiko-chisan.com/newsletter>

またはQRコードから、会報「第48号」をお読みください。



1. 養成講座が終了しました

第15期援農ボランティア養成講座は下記の通りに行われ、11月17日(土)「水の館」内の農業まつり会場にて修了書授与式が行われました。



開講式の様子

- ・実施期間：10月6日(土)から11月10日(土)
- ・受講人数：8名(男性：5名 女性：3名)
- ・座学内容：「環境保全型農業」「農家の立場から」「我孫子の農業について」
- ・実習：

10月13日(土)	仲原農園：ハウス修理
10月20日(土)	原田農園：トマト縦ひも誘引・下葉かき
10月27日(土)	染谷農園：タマネギ定植
11月3日(土)	鈴木農園：ハウス内マルチ張り



染谷農園にて玉ねぎ定植



仲原農園にてハウス修理



修了式の様子

☆ 1年間の援農を振り返って

第14期 安江あづさ

1年ですっかり援農がライフスタイルの一部となり楽しんで続けています。

自然と触れ合うことに興味があり、その一環として農業にも興味を持っていましたが、週末に自分で農業をやるには荷が重すぎる、とっており、援農ボランティアは私にとってちょうどよい選択でした。季節感を感じながら自然と触れ合えると同時に、よい運動になっていることも当初期待していた効果です。初めは「階段を下りれない」「パソコンの指が震える」くらいの筋肉痛でしたが、今ではすっかり慣れました。程よい筋肉痛を味わい、流れる汗をかくことでストレスの解消にもつながり、平日の仕事と援農ボランティアの休日でのよいサイクルができていると感じています。時季の野菜をお土産にいただくことが多く、料理の仕方を教えていただきながらたくさん野菜を食べる機会が増えたことは援農の醍醐味！です。

また、私の楽しみは農家さんやボランティアの皆さんとの会話。野菜の育て方や出来映えの話はもちろん、地元の話や美味しいお店情報、さらには皆さんの今までのご経験や知見を聞くことは刺激になります。すっかり援農が楽しくなっていますが、私の場合は頑張りすぎず、平日の仕事と週末の援農そしてプライベートのバランスをとることが、長く続けていける秘訣だと考えています。これからボランティアを始める皆さんも、援農+αの楽しみ=健康やおしゃべりなど=を持つことが長く続ける秘訣なのではないかと思います。これからも皆さんと、自然の中で汗をかき、一緒に楽しく続けていけることを期待しています。

2. 親子クッキング教室を開催して

食育交流部会サポーター委員 南千春

8月22日に、アビスタの調理室にて親子クッキング教室が行われました。「親子」というタイトルでしたが、おばあちゃん・お孫さんの組み合わせもあり、参加者さんのほうが、そういうことに捉われないことなく、ご応募くださりうれしく思いました。おじ/おばさん・甥/姪っこさんの組み合わせでもいいですし、両親の友達・両親のお子さん等、大人&子供の組み合わせであれば、どのような関係でもいいのかと、個人的には思いました。

ほとんどの参加者さんは、家では子供が料理をする、または料理の手伝いをするのがないとのことでした。しかし、どのお子さんも上手に包丁を使っていましたし、親御さんがやろうとすると、「わたし・ぼくがやる!」と言ってとても積極的に取り組んでいました。また、「何でそうするの?」「どうしてこうなるの?」と興味を持って質問したり、集中してひとつのことを達成しようとする姿も見られました。



集中して、美味しく作ろう!



メニュー：コスタリカライス(左)
豆腐とひじきのサラダ(右下)
牛乳白玉サイダーポンチ(上)

参加者さんからのお話で、家では子供が料理をする、または料理の手伝いをするのがない理由として、「常に時間に追われていて、子供と一緒に料理をする(または任せる)と時間がかかるので、自分で(親が)さっさとやってしまう。」という声何人かからありました。確かに、最近は共働きの世帯も増えていますが、このようなご家庭は多いのだろうと想像できます。

今回ご参加頂いた幾人の親御さんから「また参加したいです!」というコメントを頂きました。今回の料理教室で楽しそうだったのは、お子さんだけではなく、親御さんも楽しそうにしていたのも印象的でした。今回のように地域社会が食育活動を通じ、お子さんのいるご家庭にこのような機会を提供していくことは良いことだと実感した日でした。

3. 今年の新米フェア

株式会社あびこん 田口忠

「あびこ農産物直売所あびこん」では9月29日、「新米フェア」が開かれた。フェアは台風24号の接近にともない、朝から小雨がちらつく中に始まった。

今回のイベント内容は、新米を全品1割引きで販売、千円購入ごとに1回の新米の当たる福引き、米生産農家による対面販売を実施。残念ながらおにぎりコンテストは雨のため中止となった。対面販売では岡田信之さん、香取典夫さん、飯尾利雄さんらが試食を提供して美味しさをPR。新米の味に納得した沢山のお客様が購入していた。



新米の美味しさ、ぜひ味わって!

あびこんの大炊代表は「今年は猛暑と台風の影響が収穫量は例年より少ないようだ。しかし食味は各農家とも申し分ない出来上がりとなっている。美味しい米の味を楽しんでもらいたい」と期待していた。

4. 「市民のチカラまつり」への出展

広報委員 武井伸勝

9月23日(土)、24日(日)、けやきプラザで開催された「市民のチカラまつり」に地産地消推進協議会から出展しました。今年の全体テーマは「0歳から100歳、我孫子が大きな家族になる」でした。

地産地消推進協議会では、協議会活動を市民の方々に知っていただき、ボランティア活動の仲間を増やしたいとの目的で、いくつかのパネルを準備しました。そのひとつは、野菜の成長を0歳から100歳までの人の成長に例えて、どの段階でどんなサポートをすると美味しい野菜に育つかを、親しみやすい絵を描いて表現したパネルです。援農ボランティアの意義や作業内容が分かりやすく伝えられたのではと思います。

また、「野菜の花当てクイズ」では、普段、食卓で食べている野菜の花を写真で見せて、何の花なのかを当ててもらおうというクイズを行いました。ナス、らっかせい、そらまめの3つの質問に正解すると豪華賞品?(お米2合)がもらえます。紫色のナスの花は皆さんご存知の方が多いのですが、黄色いらっかせいの花、短冊状のそら豆の花は、かなり難題だったようです。



野菜の成長を人の成長に例えた、協議会のパネルを作成・展示



「野菜の花当てクイズ」

クイズをしていただいた来訪者の方にはアンケートを実施し、協議会のことを知っているか、どんな要望があるかを聞いてみました。ご回答数は60名で、内訳は女性が50名、男性が10名です。協議会については、良く知っている(16名)、知っている(22名)、知らない(18名)、無回答(4名)という結果で、約3分の1の住民の方々はご存じないという状況です。まだまだアピール不足と実感しました。

水の館の「あびこん」への要望としては、「子供が食べやすい野菜のレシピをおいてほしい」、「珍しい野菜をおいてほしい」について、それぞれ5名程度の方から要望がありました。一方、「米粉のパン、ちぢみホウレンソウをおいてほしい」など、既にご提供しているのに十分に住民の方々に伝わっていない事例も見受けられました。その他、「遠くてなかなか行けない」、「地方配送してほしい」などの配送に関わるご要望もありました。

当日は、本協議会の発足の中心となられた遠藤織太郎先生もご来訪され、「若い人達をいかに取り込むかがとりわけ重要」と叱咤激励のメッセージもいただきました。ただ、今回の出展を通じて感じたことは、子育て世代の方々(30代~40代)、ミドル世代の方々(50代)も、それぞれ育児や仕事で忙しく、ボランティアに取り組む余裕がないのではと思います。そのような中でも、農業に興味を持つ方々を探し当て、協議会活動の魅力をアピールすることが会員を増やすのに必要ではないかと思えます。



遠藤織太郎先生もご来訪

市民のチカラまつりを通じて、地域住民の方々からの生の声をうかがうことができ、地域に役に立つ協議会活動とは何かについて改めて考える機会を得られました。今後の広報部会の活動に活かしてまいります。

5. 役員・実行委員等の変更

三宅会長の体調不良によるご退任のため役員・実行委員等を 10 月度運営委員会にて下記の通り決定致しました。

役職名	氏名
会長	欠員
会長代行	齊藤 徳剛
援農ボランティア部会長	井出 史郎
援農ボランティア部会長代理	石田 善久
学校給食支援部会長	中村 公一
副会長 兼務 広報部会長	若王子 範文
総務部会長 兼務 事務局長	小松 信彦

6. 新会計監事紹介

JA ちば東葛東部地区経済センター 鈴木勝彦



この度、あびこ型「地産地消」推進協議会の会計監事に就任致しました鈴木です。協議会の皆様と我孫子市の地産地消活動に取り組むことになりました。

私は、我孫子市生まれの我孫子市育ちで、現在は JA ちば東葛東部地区経済センターで勤務し、日頃は購買事業や販売事業に携わっています。

あびこ型「地産地消」と言っても実際どの様な取り組みをして、どの様な活動をしているのかは今後、齊藤会長代行の下、教えを乞いながら活動していきたいと考え、会員の皆様からの意見や問題点を解決しながら、安全安心な食を提供して行きたいと思っています。結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げまして、ご挨拶と致します。

7. 千葉テレビで放送されました！

千葉テレビの常設番組「ウィークリー千葉県」の特集番組として千葉県が企画した【援農ボランティアで農作業をお手伝い】の取材が9/26にありました。受入農家である荒井農園、仲原農園および鈴木順一農園と同日ボランティアで活動中の援ボの方々を取材されました。

TV取材を受けられた農家さん、ボランティアの皆さんはカメラの前で緊張気味ながらも、我孫子農業の特長やボランティア活動の有意義さや楽しさをはつらつと語っておられました。

女性リポーターも成長した”オクラ“をその場で生食「柔らかい、おいしい」を連発したり採れたての落花生の収穫作業をお手伝いして感激していました。番組は10月13日(土)午後10時～10時15分の千葉テレビで放映されました。



TV取材の様子

千葉県ホームページ内の「千葉県インターネット放送局」でも配信中（2020年度末まで）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/net-tv/weekly/weekly-181013.html>

または「ウィークリー千葉県 援農ボランティア」などで検索するとご覧頂けます。

☆おしらせ

会報表紙の題字「農あるまちづくり」を募集します！



会報第47号より

・応募条件は2つだけ。

- ①A4サイズの紙にお書きください（縦横は自由）
 - ②背景は白または白っぽい色
- 最近習字や書道を始めた方の作品、ちぎり絵、野菜を並べて文字にした作品など、どんな作品もウェルカム！ひらがなや漢字でなく、ローマ字でも構いません。できた作品を写真に撮って、下記メールアドレスにお送り頂くか、FAXまたは郵送で事務局までお送りください。（原本お返し希望の場合は、その旨をお書き添えください。）たのしい作品をお待ちしております！（広報委員会）

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会

会長代行 齊藤 徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com

ホームページ <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

